

林業・木造建築のスペシャリストへの道 高知県立林業大学校 令和5年度 研修生募集

基礎課程

定員24名

林業技術や林業機械の操作、森林路網の開設など、フィールドワークが約7割を占め、即戦力となる人材を育成します。

取得できる修了証
(技能講習・安全教育)

林業分野に就業する上で必要な下記の12の特別教育及び技能講習修了証を研修期間内に取得できます。

- 伐木等の業務に係る特別教育修了証
- 刈払機取扱作業安全衛生教育修了証
- 車両系建設機械運転技能講習修了証
- フォークリフト運転技能講習修了証
- 小型移動式クレーン運転技能講習修了証
- 玉掛け技能講習修了証
- 不整地運搬車運転技能講習修了証
- 走行集材機運転業務特別教育修了証
- 伐木等機械運転業務特別教育修了証
- 簡易架線集材装置等運転業務特別教育修了証
- はい作業従事者安全教育修了証
- 機械集材装置運転業務特別教育修了証



専攻課程

定員30名
(各コース10名)

大学教授や各分野の第一線で活躍する講師による充実した授業で最先端の技術や知識が身につきます。

森林管理のプランナーへ 森林管理コース

森林GISの活用方法や森林施業プラン書の作成技術などを習得した、林業経営の中核を担う人材を養成します。



林業現場のエキスパートへ 林業技術コース

高性能林業機械のメンテナンスや架線技術などを習得した、林業技術のエキスパートを養成します。



木造建築のプロフェッショナルへ 木造設計コース

国内でも数少ない木造に特化したカリキュラムにより、住宅から中大規模木造までプロデュースできる木造建築のスペシャリストを養成します。



年齢 18歳以上 (令和5年4月1日時点)

※森林管理コース、林業技術コースの年齢は19歳以上

研修期間 1年(1,200時間程度)

研修料 年額130,680円(税込)

※別途、教科書・安全防具・作業着などの購入費200,000円程度

就職も全力でサポート!
就職率 100%

就職についても研修生ひとり一人の希望に合わせてきめ細かな就職支援を実施。インターンシップによる職場体験なども積極的にを行い、全ての卒業生が、林業及び木造建築関係の仕事に就くことができました。

募集日程	推薦	申請期間：令和4年 8月29日(月)～9月26日(月) 選考日：令和4年10月15日(土)
	一般	前期 申請期間：令和4年10月17日(月)～11月11日(金) 選考日：令和4年11月26日(土)
		後期 申請期間：令和5年1月16日(月)～2月3日(金) 選考日：令和5年2月18日(土)

※後期試験は前期試験で合格者が募集人員に達した場合は実施しません。

高知県立林業大学校 Tel.0887-52-0784
Fax.0887-52-0788

〒782-0078 高知県香美市土佐山田町大平80 <https://kochi-forestry.ac.jp> E-mail:030208@ken.pref.kochi.lg.jp

高知県立林業大学校 検索

フェイスブックもチェック!
研修の様子などを紹介します

校長は
世界的建築家
隈研吾氏!



林大の風

第29号 高知県立林業大学校

林業大学校で指導するチェーンソーワーク

基礎課程に入校した研修生は、経験者・未経験者を問わず安全かつ基礎的なチェーンソーの扱い方を習得してもらいます。実際に林業に就かれています。一方、チェーンソーの扱いに慣れていない方には、「こんな事まで!?!」と思われるような部分まで指導を行っており、実際の作業に即していない、とご意見をいただくこともあります。

特に学校では平場での模擬木による繰り返し練習が非常に多く、実際に山で木を伐るまでに多くの時間を場内で反復練習に費やしています。

山林での伐倒には様々な要素が複雑に絡み合うため、実際に山に行くと教を切らないと上達しない、とも言われています。それでも本校では平場による反復練習が重要であると認識し、指導を行っています。

伐倒作業を分解すると

「①認知・②判断・③操作」の3要素に分けることができますといわれています(※)。①認知、②判断については、実際の山林において周囲の情報をキャッチし、どのような



伐り方、方向へ伐倒するかを選択する作業となります。これらについては数値での判断が難しく、同じような条件で研修生の上達具合を評価することが困難です。

一方、③操作に関しては、決められた基準にどれだけ近い値を出せるかといった数値での評価が可能です。まずは山に慣れるよりも、チェーンソーでツルなどを切り過ぎて危ない状況に陥らないよう練習を行っています。

ここで、研修生が行っている練習内容の一部をご紹介します。

- 0..安全装備、チェーンブレイキの徹底
- 1..水平切り(X・Y合計2度以内)
- 2..斜め切り(X・Y指定角度の範囲内)
- 3..切込み深さ(指定した深さまで)
- 4..受口作成(直径の1/3までに形良く)
- 5..受口修正(15m先で1m以内)
- 6..追口切込み(指定のツル幅、高さを残す)

これらをバーの背・腹ともに水平な足場で行った後は、15〜35度の傾斜台に丸太を設置して同様に練習します。各ステップをクリアしないと次に進めないため、研修生により進捗に差が出ますが、グループ分けを工夫することで遅れが出ない



よう公平に指導していきます。

いずれも立木を伐倒する際の基本となる部分であり、現場の一

線で働く方にとっては当然のスキルですが、ここに「危険」が潜んでいるか分からない研修生にも安心して作業に望めるようにしています。

実際にインターンシップを受け入れていただく事業体の皆様にとっては、①②③が不十分な状態の研修生を見て、なぜ1本の木を伐るのにこれほど遅いのだろうと、思われるかもしれません。しかし、研修生もこれまで受けた指導を活かすため、そして少しでも受け入れ先の役に立ちたい、といった思いで作業に臨んでおりますので、今年度も温かい目で受け入れていただければ幸いです。

※安全で正確な伐木のためにチェーンソーの操作技能基本トレーニングテキスト 指導者用 (一社)全国林業改良普及協会 (林野庁のHPからもPDFを参照できます)

